



# この指新聞

メールアドレス

この指とまれHP



《法人本部・デイグループぱーく・相談支援にじ》

東京都東大和市清水3丁目 855 番地 2 TEL 042-564-2883

《デイグループほっと・グループホームりずむ・りずむショートステイ》

東京都東大和市清水3丁目 785 番地 2 TEL 042-564-3110

《共通》メール mail@konoyubitomare.or.jp Fax 042-564-2873

## ご報告と新年への決意

理事長 鈴木真千子

日頃より、ご支援ご協力をいただき有難うございます。今年も、各事業とも事故もなく一年終える事ができ、心からほっとしています。

2018年4月の報酬改定で全事業報酬減という嵐の中、何とか支援の質を落とさず乗り切った、と安堵する間もなく、新型コロナ禍という嵐が吹き荒れました。初めてづくしの中、各事業責任者が書いているように、支援は休みなく続きます。「感染者を出さない」よう細心の注意を払いながら、利用者の方々には何より「安心できる場所」を提供するよう努めました。一人の感染者も出さないで過ごせた事にほっとしています。しかし、まだまだ予断を許しません。改めて対策を見直し、気を引き締めていく所存です。

2021年4月には、障害福祉サービス事業の報酬改定が予定されています。前回の改定時、定められた児童に対する「指標該当児判定」(要支援の有無の基準)が実態に合っておらず、改正を求める運動を続けています。このまま2021年報酬改定に引き継がれる可能性が高く、障害のある子どもの放課後保障全国連絡会(全国放課後連)からの呼びかけで、東大和市議会に対し「指標該当児判定」廃止の意見書を求める陳情を12月開催の議会に提出しました。厚生文教委員会の方々には説明する機会もいただきました。しかし、委員会、その後の本議会でも不採択となりました。とても残念です。

子ども達の支援の必要度が判定されるには適切な指標が必要です。現在「指標該当児」と判定されるには13点以上という基準があります。例えば、コミュニケーションが取れない為パニックになる子がいたとして、指標で反映される点数は最高で2点です。パニックになると他害や自傷行為など起こす子には、絶えず指導員が付き添っていますが、判定は「非該当」になり、事業所の収入は低くなり、指導員の数を減らさなければなりません。障害の程度をはかる指標は、「支援の必要」の度合いを測る物にする必要があります。今の「指標」は子供たちの支援の必要性を表す物ではありません。このことは、児童の判定にとどまらず、福祉の考え方にも根差すものと思います。改善を働き続けていきます。

支援現場で、適切な支援を受けた時、自分の事を理解してもらった時、「それぞれに沿った働きかけ」が利用者の方々の心に届いたとき、大きな安心と自信から利用者自ら歩いていくと、今までの経験から確信しています。スタッフは、そこを目指して日々支援していきます。「利用者の方々の笑顔」を大切に歩んでいきます。適切な支援の為の研修はコロナ禍でリモートになるものが多いのですが、反面研修を受けやすくなる事もあります。色々工夫してスタッフの技量を上げていく取り組みをしていきます。

皆様からのご寄付を今年も沢山いただきました。必要な物を買う費用に充て、本部前の駐車場の切り下げ(段差をなくす)も寄付をいただいて工事をすることができました。皆様のご厚意に深く感謝しています。

## 放課後等デイサービス事業

### ☀️デイグループほっと☀️

昨年の活動を振り返ると、調理・外食・外出など新たなプログラムに挑戦していました。今年はより充実した活動にしていければ良いと、年明けの頃には考えていました。ですが、あれよあれよという間にコロナウイルス感染症の流行が広がり、それらの活動は自粛せざるを得なくなりました。そして、3月から各学校が臨時休校になりました。

「見通しが立たない」事に対する不安が人一倍強い子どもが多く、家庭で不安定になっているという保護者の方の訴えもありました。感染を恐れて自宅から出られない子どももいました。

ほっと・ぱーくは、休校期間中も原則開所していました。それぞれの事情があり、自宅で過ごす事ができない子ども達が通所してきていました。検温・消毒・手洗いうがいなどの対策をしながらの活動です。目に見えないウイルスの事を理解する事が難しい子どもたちなのですが、頑張っ

て適応しています。感染防止のために通所をせずに自宅で過ごす子どもとは、ビデオ通話等でコミュニケーションを取っていました。画面越しに話す事で、直接会うよりスムーズに会話できる子どももいて、普段とは違う姿が見られました。保護者の方からも、「家族以外と話す機会がなかったので助かります」など感想をいただきました。

3カ月という長い休校期間を、変化に弱い子どもたち、そして保護者の方たちは頑張っ



### ☀️デイグループぱーく☀️

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、緊急事態宣言の発令の中でのスタートとなりました。

学校も休校になり（中には家庭の事情で、登校している子どももいましたが）、通所人数も少なく、参加している子どもたちの中からは、「〇〇君、いなくてつまらない。」という声もあり、静かな室内は時には寂しくも感じましたが、一人一人と向き合える貴重な時間でもありました。また、お休みしている子どもたちとは、ズームやラインでビデオ通話をし、音楽をかけて一緒に踊ったり、自宅での様子を紹介してもらったりして、新たな発見があり、楽しい時間を共有できました。長期休みの活動では、外出や調理も中止し、限られた中での活動になり少し物足りなさを感じた子どもたちだったかもしれませんが、暑い中での水鉄砲遊びは好評で、送迎車を洗車してくれたり、的当てをしたりして楽しみました。中には、秋の気配を感じる頃まで、通ってくるたびに水遊びをしている子どももいました。

また、この機会を利用して、ほっとと合同でスタッフの勉強会の時間をとり、放課後連の研修会のビデオを見て、研鑽に励みました。

まだまだ、終わりの見えないコロナ禍ですが、検温、消毒等対策を継続しながら、安心して楽しめる場所にしていきたいです。

（木原則子）

ZOOMによる音楽活動の様子（ぼかしています）→



## 指定特定相談事業・指定障害児相談支援事業

相談支援にし ☀️（平成27年から福祉支援の受給決定に支援計画作成が必要となりました）

新規契約のお申し込みが増え続け、現在の契約者数は前年比3割増しの71名（児童42名、成人29名）となっています。非常勤支援員の勤務日を増やして対応に努めています。ご本人やご家族が希望される生活を実現するための案を作成し、市や関係機関と連絡を取り合いながら支援が円滑に継続されるよう奮闘努力しています。また、放課後等デイサービスやグループホームなどの福祉サービス事業所がどこも一杯なので、皆様がニーズに合わせて利用できる事業所探しも目下の課題となっています。（前橋 美保）

## 共同生活援助事業・短期入所事業

### 🏠グループホームりずむ・りずむショートステイ🏠

今年度はコロナウイルスの感染対策に追われながらも、利用者の心のケアを重視し過ごしていました。4～5月のコロナ緊急事態宣言中の自粛期間は、職場や作業所に行くことができず、ほぼ毎日日中支援にて生活していました。利用者達が一日中ホームで過ごしていた為、トラブルも多くあり、不安定さも見られました。気分転換の為、ほぼ毎日多摩湖へ散策に出かけたりして過ごしました。6月からは就労等が再開した為、引き続き衛生面の声掛けや感染対策を行いつつ、生活を支援していきました。

以前は定期的にカラオケや外出などの外出支援を行っていましたが、なかなか出来ない状況だった為、居室でカラオケが楽しめるような環境づくりをしたり、毎年行っていたBBQもホーム施設内で実施したりして、皆で楽しんで過ごす事に努めました。ホーム内では感染対策として、2時間おきの手洗い・うがい・アルコール消毒・検温を徹底し各自で実施表に記録しています。

今後とも利用者スタッフ共に感染対策等行っていき、元気に乗り切っていこうと思います！（高谷明美）

先日行ったクリスマス会での1枚 →



### 🎉会の行事🎉

現在この指とまれでは、法人全体の行事として、夏のワークショップ・成人と卒業を祝う会を行っています。

今年は8月1日に、東村山の和楽器グループ『Sara's mind』をお迎えし、夏の行事を行う予定でした。コロナ禍でも皆で楽しい思い出を作るため、準備を進めて参りましたが、感染が拡大している状況を鑑み、やむなく中止とさせていただきます。突然の中止となり、ゲストの『Sara's mind』の方々や予定を空けてくださっていた方には、深くお詫び申し上げます。

この状況が落ち着き、3月の成人と卒業を祝う会は、開催できることを願っています。（横田愛）

《以下二事業は、NPO法人リサイクルショップ「らら」の補助を受け運営しています》

### 🍷OB・OG会(卒業生)🍷

放課後等デイサービス卒業生の集まる場として、昨年より始めました。

今年の一月には、新年会を行いました。少し大人な雰囲気のお店に集まり、食事をしました。近況報告や他愛のない会話が続き、笑顔の多いリラックスした会になりました。

昨今の情勢により、今後の活動は残念ながら未定ですが、必ず再開できる日が来ますので、今しばらくお待ちください。（佐藤森）

※高校生以上を対象としていた「さんくらぶ」は、職員不足の影響により活動休止中です。



### ♪ 個別音楽療法 ♪

土曜日の午後に行っています。現在は、6名（デイ利用2名・卒業生4名）の方が個別音楽療法に参加されています。担当スタッフは、3人で交代して行っています。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、3月末から6月まで、全てのセッションを中止しました。歌をうたうことや楽器を使用することへの制限は、過去にも経験がありません。それでも「音楽には、人を癒したり元気にしたりする力がある」と信じて、試行錯誤しながら、今できることを精一杯やっていきたいと考えています。（横田愛）

## 賛助団体

### 👤 NPO 法人「リサイクルシップらら」とコロナの影響 🍷

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、閉店も考えておりました。その旨を大家さんと理事で話し合いをしたところ、大家さんより「コロナ禍で厳しいのは良くわかる。少し落ち着くまでは家賃は免除します。私達もボランティアです。」と暖かいお言葉を頂き、スタッフ一同感謝の気持ちでいっぱいでした。（その後、持続化給付金をいただいたので、大家さんにはお支払いできました。）

2月の下旬から6月末までお休みしていましたが、7月から午後だけの営業を再開しました。最初の頃はボランティアさんも家族やご自身の心配でお休みされていましたがほとんどの方が戻られ、コロナ前に来ていただいていたお客様もお買い物に来てくださっています。以前ようにボランティアさんとお客様の触れ合いが戻りつつあり嬉しく思います。

南街公民館まつりも福祉祭も中止になりました。手作り品などたくさん売る物を用意していたので残念です。コロナが落ち着いた頃にセールなどの機会を設けられたらいいなと考えています。

これからも《和気あいあい》で頑張ってます。 (NPO 法人リサイクルショップらら副理事長 西田由美)

~~~~~

「リサイクルショップらら」(東大和市南街 5-90-8)は「この指とまれ」を支えてくださっている賛助団体です。NPO 法人時代の「この指とまれ」の賛助会員が中心になって構成されています。事業内容は地域の方々から、寄付して頂いた品物をボランティアの方々で販売しています。売り上げを毎年この指とまれに寄付していただいています。設立から21年、地域でのコミュニケーションの場としての役割も生まれてきています。

家庭で不要になった品々のご寄付を募っています。

連絡は 042-566-6465(らら)又は、この指まで



#### 寄附のお願い

日頃より、この指とまれの活動にご支援いただきありがとうございます。

この指とまれの、活動の充実と運営のために、皆様からのご寄付を募集しております。

皆さまから頂いたご寄付は、買いたくても買えなかった品々を買わせていただき、活動に潤いが生まれました。又、建築当時予算がなくあきらめていた工事をする事ができました。心から御礼申し上げます。

当法人は平成28年9月、「寄附金特別控除法人」に認定されました。この指とまれに寄付して下さった方々が、確定申告の際、税金の控除を受けることができます。又、社会福祉法人へのご寄付の際には「寄附申込書」が必要となります。ホームページから印刷していただくか、ご連絡をいただければ、送付させていただきます。お手数をおかけして申し訳ありませんが、「寄附申込書」にご記入の上郵送又はFAX (FAX 番号 042-564-2873) でご送付ください。よろしく願いいたします。

<振り込み先> 三井住友銀行 東大和支店 普通 口座番号 4 2 6 3 8 8 3 社会福祉法人この指とまれ

郵便振替口座 00100-9-387225 社会福祉法人この指とまれ

※現金でも承っております。

#### ●編集後記●

今回で、機関紙委員発足後5年目のこの指新聞です。もともと少ない機関紙委員でしたが、更に少なくなってしまう、今年度の機関紙作成は寂しくやっております…(笑) 皆さん、お変わりなく過ごされているでしょうか。

この指とまれば、コロナウイルスの影響で、各事業色んな対応に追われてバタバタと気持ちの落ち着かない2020年でした。が、今回も例年通り、各事業の担当職員で文章を分担して、忙しいながらも何とか発行日までに間に合いました。無事に発行出来て、一安心です！皆さんもどうか様々なウイルスに気を付けてお過ごしください。(Y・S)